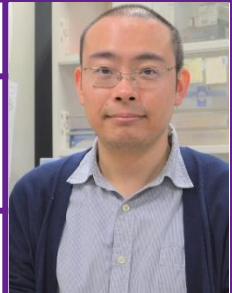
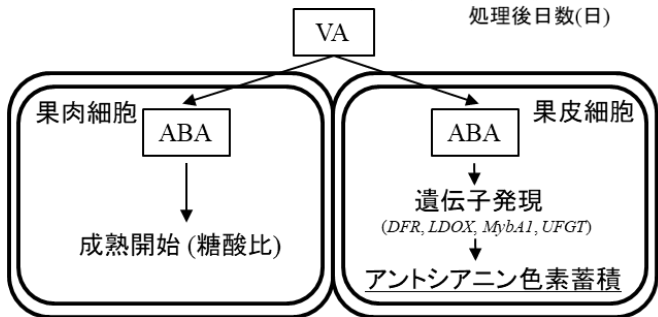
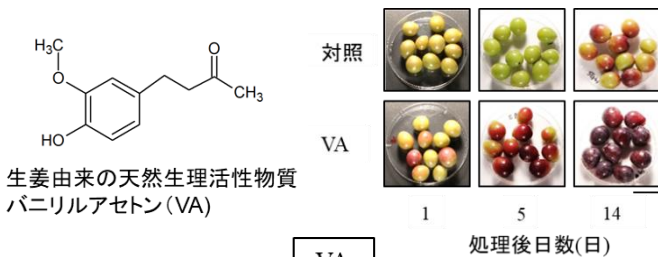


氏名・職名	榎 真一 助教	
キーワード	果樹園芸学 ブドウ 分子生物学 遺伝子 植物生理学	
ホームページ	http://www.wine.yamanashi.ac.jp/fruitgenetic/index.htm	
所属学会	園芸学会、日本ワイン・ブドウ学会 (ASEV Japan)、 American Society of Enology and Viticulture	
研究者から一言	<p>私は主にブドウを対象とした「高品質果実の生産」を目的に研究を行っています。当研究室では、ブドウの果実品質に関する様々な生命現象を制御する遺伝子機能を解析することで、その知見を利用し、論理性・再現性に基づいた科学的視点による園芸農業分野の技術・製品開発を目指しています。</p> <p>種苗業者、農業・肥料メーカー、ワイナリー等の農業関連企業の皆さま、貴社製品の改良や新製品などに必要な技術・ノウハウについて一緒に研究開発してみませんか。私の研究が貴社の技術と融合し、新しい技術や商品が生まれることにつながれば幸いです。</p>	

□研究テーマ：「高品質果実の生産」に関する研究

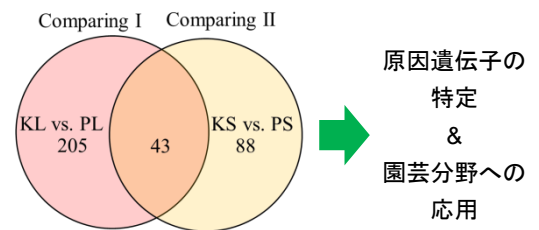
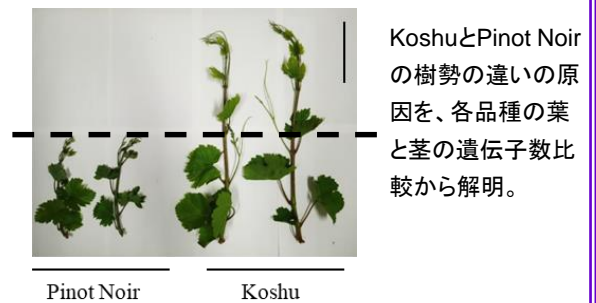
◆ブドウ果実着色不良の改善



近年の地球温暖化などの天候不良によりブドウの着色不良が多発している。その改善のために、培養細胞試験により探索したVAを圃場散布試験して着色効果を実証。その原理を遺伝子発現や色素測定により解明した。

Enoki et al. PLoS One (2018).

◆樹勢調整による栽培省力化



樹勢(葉や茎の成長度)が大きい品種(甲州: Koshu等)では、剪定作業が増し、単位面積当たりの果実収量が減少する問題がある。その原因を遺伝子の網羅的解析により特定した。それら知見から樹勢調整技術を開発中である。

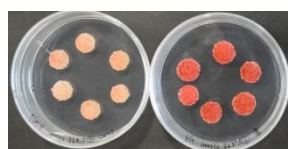
遺伝子機能から現象を解明し、果樹園芸分野の課題を解決

□企業と連携して行えること

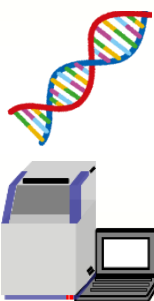
- ◆果実の品質や生産性に関する技術相談
- ◆果実生産に有用な天然生理活性物質の探索

自然界や食材などに存在する天然成分から、ブドウの着色や果実成熟などを品質向上できる材料を探索し、農薬開発などに貢献可能。

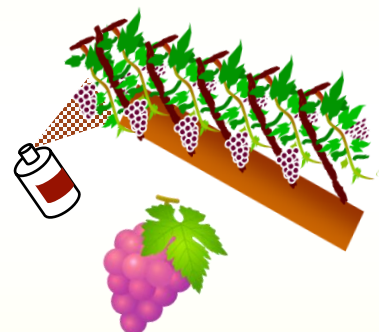
例えば、
着色促進物質の探索では...



培養細胞レベルでの
評価系



遺伝子と色素分析による
早期診断



圃場試験レベルでの
再現性の確認と条件最適化

- ・培養細胞系と遺伝子診断などの早期診断による物質探索
 - ・圃場試験による効果の実証と条件最適化
- 果実生産などに有用な農薬などの迅速な開発

適用できる製品・分野のイメージ

□技術を「適用できる製品」「活用できる分野」について

- 【農薬・肥料】農薬・肥料メーカー
天然生理活性物質の早期探索系による迅速な製品開発
- 【優良品種・種苗】種苗会社
有用遺伝子を指標とした迅速育種による苗木生産
- 【高品質なブドウ果実】農業法人・ワイナリー
研究知見を活かした高品質果実の生産

技術シーズについてのお問合せ、ご相談先

E-mail: renkei-as@yamanashi.ac.jp

Tel: 055-220-8758 Fax: 055-220-8757

